

2 研究の実際 > (3) ピア・メディエーションに関する活動プログラム

オ 活動プログラムの検証

(ア) 検証内容

本研究では、学級において児童生徒が支え合う人間関係を築いている状態を、学級の雰囲気や学級での友達との関係が良好な状態、学級で児童生徒が自己存在感を感じている状態であると考えました。また、児童生徒が支え合う人間関係を築く力は、ピア・メディエーションに関する活動プログラムで学習するトラブルを未然に防止したりトラブルを解決したりするスキルの向上によって高まると考えます。そこで、以下の検証の視点に注目し、活動プログラムの効果や課題点を探りました。

(イ) 検証方法

小学校3校（4年生29名、5年生59名、計88名）、中学校3校（2年生74名、3年生36名、計110名）、高等学校3校（2年生101名）の児童生徒を対象に、活動プログラムの実践前（6月）と実践後（11月）に、「トラブルについてのアンケート」と「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」、「がばいシート」を実施し、小・中・高等学校の校種別に児童生徒のトラブルに関する意識や行動の変化を見ました（回答は4件法で集約）。また、小・中・高等学校で比較したものを参考資料として掲載しています。

【検証の視点Ⅰ】トラブル未然防止に効果があったか

- a トラブルにならないような聞き方や話し方についての児童生徒の意識と行動の変化
- b 学級におけるトラブルの頻度の変化
- c 自分も周りも傷付けないような怒りのコントロールの仕方についての児童生徒の意識と行動の変化
- d 日常生活における児童生徒の怒りへの対処法の変化
- e トラブル未然防止に関わる質問に対する児童生徒の意識の変化
- f 活動プログラム実践後の児童生徒と教師の感想

【検証の視点Ⅱ】トラブル解決に効果があったか

- a 友達同士のトラブルを見たときの声掛けについての児童生徒の意識と行動の変化
- b 友達同士のトラブルの場面での児童生徒の声掛けの意識の変化
- c トラブル解決に関わる質問に対する児童生徒の意識の変化
- d 活動プログラム実践後の児童生徒と教師の感想

【検証の視点Ⅲ】学級における支え合う人間関係づくりに効果があったか

- a 学級の雰囲気、友達との関係、自己存在感についての児童生徒の意識と行動の変化

次の3つのアンケートの結果を基に検証しています。

◆「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」

このアンケートは、本研究のピア・メディエーションの活動プログラムで取り扱う「怒りへの対処法」「トラブル未然防止のスキル」「トラブル解決のスキル」の3つについて、児童生徒の意識や行動を問う内容で構成しています（回答は4件法で集約）。

質問：「トラブルにならないような話し方を心掛けていますか（意識）」
 ：「トラブルにならないような話し方をしていますか（行動）」
 ：「トラブルにならないような聞き方を心掛けていますか（意識）」

- :「トラブルにならないような聴き方をしていますか(行動)」
 - :「友達同士のトラブルを見たときに、声を掛けようと心掛けていますか(意識)」
 - :「友達同士のトラブルを見たときに、声を掛けていますか(行動)」
 - :「自分も周りも傷つけないような怒りのコントロールの仕方を心掛けていますか(意識)」
 - :「自分も周りも傷つけないような怒りのコントロールの仕方をしていますか(行動)」
- 「いつもしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合を考察

◆「トラブルについてのアンケート」

このアンケートは、平成26年に本研究の実態調査のために作成して県内の小・中・高等学校の児童生徒を対象に実施したアンケートです(サイトマップからダウンロードすることができます)。「学級におけるトラブルの頻度」「友達同士のトラブルの場面での声掛けの意識」「日常生活での怒りへの対処法の変化」の3つについて、児童生徒の意識や行動を問う内容で構成しています(回答は4件法で集約)。

質問：提示したトラブルの場面(小学校32、中学校29、高等学校20の場面)のそれぞれについて、「あなたのまわりの様子に近いものを選んでください」

→ 「よくある」「ときどきある」と回答した児童生徒の割合を考察

質問：提示したトラブルの場面(小学校32、中学校29、高等学校20の場面)のそれぞれについて、「もしこのトラブルがあったとしたら、あなたは間に入って声を掛けることができると思いますか」

→ 「思う」「少し思う」と回答した児童生徒の割合を考察

質問：提示した怒りへの対処法(20の対処法)のそれぞれについて、「学校生活で友達に腹が立って、イライラしたりムカムカしたりしたとき、あなたはどのようにしていますか」

→ 「よくする」「ときどきする」と回答した児童生徒の割合を考察

◆「がばいシート」

このアンケートは、平成20年度に佐賀県教育センターが作成した、学級における集団や個人の状態を把握するシートです。「学級の雰囲気」「友達との関係」「自己存在感」「授業への意欲」「教師との関係」の5つの項目(それぞれ5つずつの質問)について、児童生徒の意識や行動を問う内容で構成しています(回答は4件法で集約)。

ピア・メディエーションに関する活動プログラムと学級における集団や個人の状態の関連を見るために、「がばいシート」の「学級の雰囲気」「友達との関係」「自己存在感」の3つの項目に着目して考察を行います。検証Ⅰと検証Ⅱでは、3つの項目の中からトラブル未然防止とトラブル解決に関わる6つの質問について考察します。検証Ⅲでは、「学級の雰囲気」「友達との関係」「自己存在感」の3つの項目について考察します。

トラブル未然防止に関わる質問

質問：「あなたのクラスでは、ルールが守られみんなが気持ちよく過ごせていると思いますか」

→ 4件法の選択肢を「思う・4」「少し思う・3」「あまり思わない・2」「思わない・1」として、児童生徒の回答の平均値を考察

質問：「あなたのクラスでは、だれかが悲しむような言動はありませんか」

:「あなたは、友達から傷付けられること(悪口、暴力、無視など)がありますか」

→ 4件法の選択肢を「全くない・4」「ほとんどない・3」「時々ある・2」「よくある・1」

として、児童生徒の回答の平均値を考察

トラブル解決に関わる質問

質問：「あなたのクラスでは、問題があったとき、みんなで考え解決しようとしていますか」

→「している・4」「少ししている・3」「あまりしていない・2」「していない・1」として、児童生徒の回答の平均値を考察

質問：「あなたには、困っているときに助けてくれる友達がいると思いますか」

：「あなたは、友達や先生から頼りにされたり、クラスの役に立ったりしていると思いますか」

→4件法の選択肢を「思う・4」「少し思う・3」「あまり思わない・2」「思わない・1」として、児童生徒の回答の平均値を考察

学級の雰囲気

質問：「あなたのクラスは、明るく楽しい雰囲気だと思いますか」

：「あなたのクラスは、だれとでも話しやすい雰囲気だと思いますか」

：「あなたのクラスでは、ルールが守られみんなが気持ちよく過ごせていると思いますか」

：「あなたのクラスでは、だれかが悲しむような言動はありませんか」

：「あなたのクラスは、問題があったとき、みんなで考え解決しようとしていますか」

友達との関係

質問：「あなたは、仲間に入れてくれる友達がいると思いますか」

：「あなたには、何でも話せて、分かってくれる友達がいると思いますか」

：「あなたには、困っているときに助けてくれる友達がいると思いますか」

：「友達は、あなたの秘密や約束を守ってくれると思いますか」

：「あなたは、友達から傷付けられること（悪口、暴力、無視など）がありますか」

自己存在感

質問：「あなたは、クラスの友達とおしゃべりをしたり、遊んだりしていますか」

：「あなたは、先生やクラスの友達からほめられたり励まされたりすることがありますか」

：「あなたは、先生やクラスの友達から『ありがとう』と言われることがありますか」

：「あなたは、友達や先生から頼りにされたり、クラスの役に立ったりしていると思いますか」

：「あなたは、クラスのみんで何かに取り組み、やってよかったと感じることがありますか」

→各質問について、4件法の選択肢を、好ましい回答の順に「思う・4」「少し思う・3」「あまり思わない・2」「思わない・1」のように数値化して、各項目の5つの質問に対する児童生徒の回答の平均値を考察

参考URL

・佐賀県教育センター

好ましい人間関係を育てる開発的・予防的教育支援の在り方の研究

－「がばいシート」を活用した実践を通して－

http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h21/10soudan/index_soudan.html